[追悼・小林 晶先生]

恩師 小林晶先生を偲んで

小林晶先生のご逝去の報に接し、謹んで哀悼の意を表します。

先生のご指導のもと、私は日仏整形外科医学交流に携わる機会を得、微力ながらその一端を担う立場へと導いていただきました。日仏整形外科学会、SOFCOT、日仏医学会、日本医史学会へと連なる学術的世界への道は、すべて先生が切り拓いてくださったものであり、私個人の力を遥かに超えた導きであったと感じております。

先生の学問的歩みは、若き日の語学修養に始まります。大学在学中、在福岡アメリカ大使館関係者の子弟教育に携わっておられたフランス人ロミエ夫人よりフランス語の薫陶を受けられ、その後フランス国費留学試験に合格された際には、天児教授が大変喜ばれたと伺っております。以後、二度にわたりリヨンに留学され、二度目には膝関節外科の泰斗であるリヨン大学整形外科のTrillat教授のもとで研鑽を積まれました。厳格な口頭試問を含む徹底した教育の中で鍛えられた経験は、先生の臨床観・学問観の礎となっていました。

先生は、日仏整形外科学会の発足に尽力されるとともに、福岡日仏協会会長として地域に根差した日仏交流を推進され、さらに九州日仏学館の存続にも深く関わられるなど、長年にわたり日仏両国の医学および文

●1997年 京都で開催された日仏整形外科学会の後の懇親会にて撮影。写真左から、筆者、小林先生、小野村先生、ガジェリー先生。ガジェリー先生は学会において「腱板補強術（Rotator Cuff Reinforcement）」をテーマに招待講演を行われた。

医療法人南島整形外科　理事長　南　島　広　治

化交流に多大な貢献を果たされました。これらの功績が高く評価され、先生がフランス共和国よりレジオンドヌール勲章を受章されたことは、我が国の整形外科界にとっても誇るべき出来事であります。

フランスの話題になると、先生は常に熱意に満ちた語り口で、その医学的・文化的魅力を語られました。2019年、リヨンで開催された日仏整形外科学会では、先生が長年にわたり築いてこられた日仏整形外科医学交流の厚みと広がりを、あらためて実感する機会となりました。

1997年4月、リヨン大学整形外傷外科学教授Dejour先生の退官記念行事に出席された帰途、当時パリ留学中であった私と夕食をご一緒したことが、先生との最初の学術的・個人的な交流となりました。その後、Gazielly先生をご紹介いただき、サンテティエンヌにて肩関節外科、とりわけ腱板断裂に関する集中的な研修の機会を得ました。このご縁が、後年の『ガジェリー肩関節外科』医歯薬出版の翻訳出版へと結実したことは、私にとって大きな栄誉であり、先生のご指導の賜物であります。

●レジオン・ドヌール勲章受章記念祝賀会／最前列中央は小林先生ご夫妻。小林先生の隣は原寛先生（原土井病院理事長）、奥様の隣は井口潔先生（九州大学第二外科名誉教授）、岩本幸英先生（九州大学整形外科名誉教授）

先生との日常的な学術的交流は、私にとって比類なき学びの時間でした。投げかけられる問いは常に本質的で、語学力と会話術を含む卓越した言語能力、緻密な思考力、圧倒的な読書量、そして肩書きにとらわれず本質を見抜く眼識に、幾度となく啓発を受けました。これらの教えは、私の臨床および学問的姿勢の基盤となっています。

晩年、先生は透析治療を受けられながらも、医学の進歩への期待を語られ、後進への助言を惜しまれることはありませんでした。2025年11月、SOFCOTにて購入した書籍をお届けした折に直接お会いしたのが、先生との最後の対面となりましたが、その際にも日仏整形外科医学交流の将来について深い思いを語っておられました。

先生が生涯を通じて示してくださった、国境を越えた医学への敬意、学問に対する厳しさと寛容さは、今後も私たち後進の指針であり続けます。ここに深甚なる敬意と感謝を捧げ、謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

●レジオン・ドヌール勲章受章記念祝賀会
左から九州大学整形外科同門の光安先生、小林先生、鳥巣先生

●レジオン・ドヌール勲章受章記念祝賀会
左から福岡整形外科病院現理事長・王寺先生と創設者・小林晶先生。かつては師弟として病院を支えられたお二人の満面の笑顔。

●レジオン・ドヌール勲章受章記念祝賀会
花束贈呈

●2014.1.21　レジオン・ドヌール勲章授与式
右はクリスチャン・マセ大使（駐日仏大使館にて）

●2015年 第13回AFJOサンマロ会議の折、巡礼地モン・サン・ミシェルにて、小林晶先生ご夫妻。

●2019年 第15回AFJOリヨン会議の折にて。小林先生が若き日に留学され、Trillat教授の薫陶を受けられたリヨンのHôpital Édouard Herriot（エドゥアール・エリオ病院）。小林先生は懐かしそうなご様子で当時のことを語っておられました。

●2019年 第15回AFJOリヨン会議の折にて。左から小林先生、福岡整形外科病院の徳永真巳先生、筆者。